



太郎・次郎

石岡市立東成井小学校
学校だより 8号
令和6年5月15日
校長 石崎 重臣

「太郎・次郎」は、校庭にそびえるいちょうの木です

【組織目標】 児童が主役 みつけよう かんがえよう やってみよう～認める 寄り添う 支える～ **大切にしたいこと ～23年前の「三つの誓い」**

先日、私のところにかつての教え子から連絡をいただきました。「友達と小学校時代の話をされていて、みんなで集まろうということになったんです。石崎先生にも来てほしいんです」という内容でした。23年前に担任した、当時5年生の教え子でした。会うのも実に23年ぶりでした。

約束の日に、14人の教え子たちとの再会を果たしました。やんちゃだった子も、はにかみ屋だった子も、にぎやかだった子も、みんな立派な社会人になって、とても感激しました。みんなで笑ったこと、叱られたこと、楽しかったこと、がんばったことなどがそれぞれの教え子たちから語られ、当時のことが鮮やかによみがえってきました。

その中で「今でも『5年2組三つの誓い』を覚えていますよ」と話してくれた子がいました。これは、私が担任したクラスの子たちにいつも話していたことです。

「呼ばれたら、必ず返事をする事」

人は、一人では生きていけません。自分以外の人の力を借りて、人は生活をしていきます。そのためには「呼ばば応える」関係を作ることが大切です。名前を呼ばれたら、必ず返事をして「呼応」の関係をつくりましょう。自分は一人じゃないことを、みんなで分かり合いましょう。

「人の話をよく聞くこと」

「自分のことを分かってほしい」という気持ちは、誰でももっているものです。だからこそ、自分とは違う「相手の話を最後までよく聞き」ましょう。相手の話を聞くことで、自分の考えをよいものに高めることができます。また、相手の存在を認め、仲間意識を高めることにもつながります。自分の意見が「わがまままで終わらず」、きらきら輝き始めます。

「絶対にうそをつかないこと」

一つうそをついてしまうと、そのうそを守るために、もっとうそをつかなければならなくなります。それは、とても苦しいことです。うそをついたことをずっと気にしながら生きていくことになります。本当のことを話すことは、時として勇気がいる場合もあります。それでも「うそをつかない」ことは自分を高め、友達からの信用を得ることにもつながります。

「この『三つの誓い』を会社の社員たちに話しているんです」「うちの子たちとの約束は、この『三つの誓い』なんです」と教えてくれた教え子もいました。大人になった今でも覚えていてくれて、とても嬉しくなりました。

将来の予測が困難な時代といわれるこの令和においても、「人との関わり」は欠かせないものであると私は考えます。自分自身を大切に、かつ、相手を理解し協働的に生きていく力を身に付けてほしいと切に願っています。「人との関わり」を大事にしていく上で、私自身、この「三つの誓い」を今でも大切にしております。それは、なるいっこたちに伝えていきたいことでもあります。

なるいっこみんなが笑顔で毎日を過ごし、この教え子たちのように、将来、立派な社会人となって活躍できるように、これからも「人との関わり」を大事にした教育活動を展開していきます。



学校だより「太郎・次郎」はホームページの「各種たより」からもご覧になれます。

東成井小学校HPアドレス

<https://www.ishioka-school.ed.jp/page/dir00015.html>